

喘息患者のうち吸入ステロイドを入院中に処方された割合(15歳以上)

QI 項目の解説

気管支喘息は、気管支に炎症が続き、さまざまな刺激に敏感になり、空気の通り道が狭くなる病気です。喘息の炎症の多くはダニやハウスダスト、花粉、ペットのフケなど日常生活のありふれた物質に対するアレルギーが関与しています。

「喘息予防・管理ガイドライン 2018」によると、喘息の治療薬は、喘息症状を軽減・消失させ肺機能を正常化し、その状態を維持させる長期管理薬（コントローラー）と、発作時に短期間使用する発作治療薬（レリーバー）に大きく2種類に分類されます。

長期管理薬：吸入ステロイド薬、長期作用型の気管支拡張薬、抗アレルギー薬

発作治療薬：経口ステロイド薬、短時間使用する気管支拡張薬

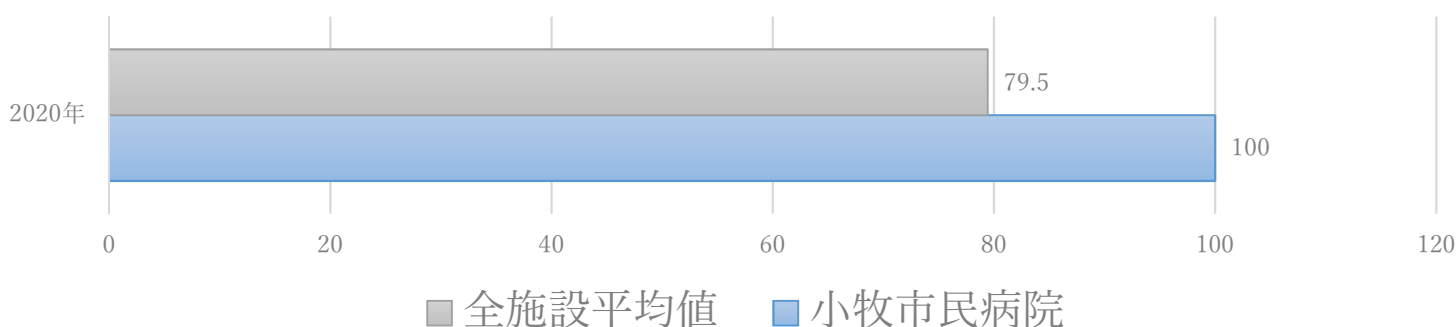
喘息患者のうち吸入ステロイドを入院中に処方された割合

分子：入院中に吸入ステロイド薬の処方を受けた患者数

×100【%】

分母：喘息を原因とする15歳以上の入院患者数

喘息患者のうち吸入ステロイドを入院中に処方された割合(15歳以上)



2020 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

全施設平均値よりも大幅に上回っております。

数値改善に向けた今後の取り組み

入院成人喘息患者さんに対するステロイド吸入治療の現状維持に努めます。